市民参加型の「熱中症リスク発見ツアー」

都市の高温化に適応していく上で重要なことは、そこに暮らす人々がその環境のリスクを正しく認識することである。地域住民の方々と本学の学生が一緒に、大宮駅周辺地域を歩き計測することで、暑熱環境の実態を調査・共有し、都市の高温化に対する理解を深める機会としていただくため、市民参加型の「熱中症リスク発見ツアー」を企画・実施した。

実施日　　：2015年8月24日

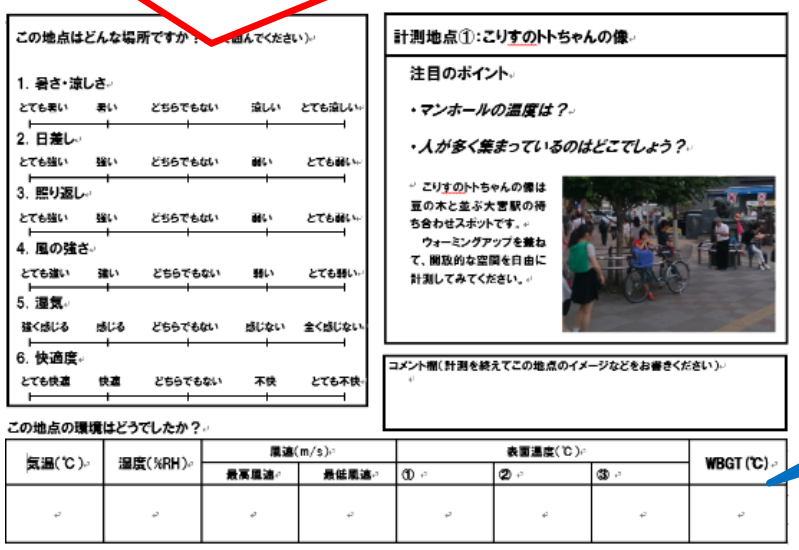
対象地域　　：大宮駅東口地

参加者　　：11名

（地元の自治体やまちづくり団体、インフラ会社勤務、学生の方など主にまちづくりに興味のある方々。）

体感評価：①

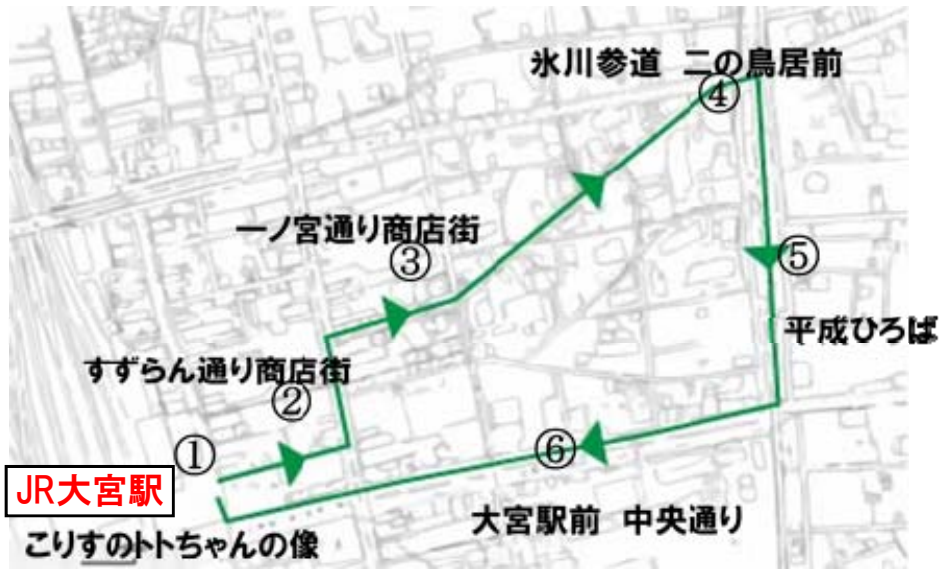
暑さ、日差し、照り返し、風の強さ、湿気、快適度の6要素をそれぞれ5段階で評価



ツアーで使用した計測シート

計測値：②

気温、湿度、風速、表面温度、WBGTを計測



「熱中症リスク発見ツアー」のルート図

計測機器を用いて、暑熱環境を熱中症リスクの観点から定量的・客観的に評価する。同時に、体感の状況について主観的な申告内容を調査し、両者を比較評価することで、これからの都市環境デザインに重要となる要素を見出すことが重要である。

今年度の取り組みを範例として、今後も継続して実施していく意義を確認することができた。次年度以降はさらに発展的な活動を行い、地域住民の暑熱環境に対する理解と関心を高め、都市高温下への適応策の観点から、地域への貢献方策の検討を継続して進めていく。

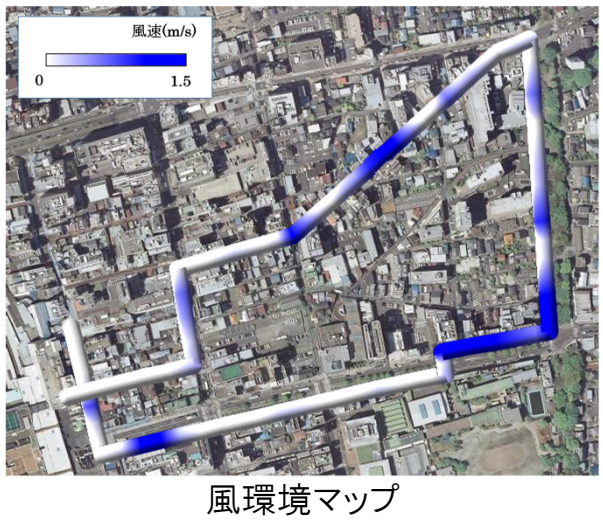
緑陰空間の熱環境の調査の様子

大通りの風環境の調査の様子

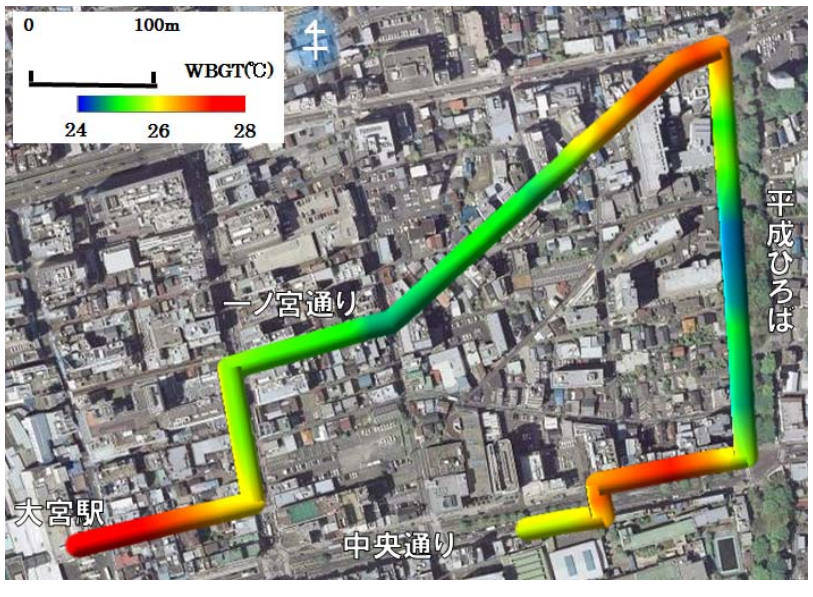
熱中症リスクのマッピング

まちあるき調査によって記録した計測データを地図上にマッピングした。マップ化し、グラデーションによる変化をつけることで、地域の中でどのあたりで熱中症リスクが高くなりやすいかを一目で把握することができる。暑熱環境への適応策として、個々人が暑熱環境の実態を把握し、熱中症リスクの観点から適切な行動をとるためには、熱中症リスクをいかに適切かつ迅速に、印象に残りやすく人々に伝えられることができるかが重要となってくる。

この熱中症リスクのマッピング手法は専門知識を持たない人々でも比較的容易にそれを実現できるものとして提案できる。今後、熱中症リスクマップを一種の熱環境の観点からのハザードマップとして活用することで、人々の熱中症リスクに対する適切な行動を促すことが期待できる。



風環境マップ



WBGTマップ